

トカラ列島口之島・中之島・諏訪之瀬島・平島の昆虫 (2023)

金井 賢一¹・守山 泰司²・中峯 敦子³

Insects Collected on Kuchinoshima Is., Nakanoshima Is., Suwanosejima Is. and Tairashima Is. (Tokara Islands) in 2023

KANAI Kenichi¹, MORIYAMA Taiji² and NAKAMINE Atsuko³

Abstract : In 2023, we surveyed insects on Kuchinoshima Is., Nakanoshima Is., Suwanosejima Is. and Tairashima Is. in the Tokara Islands. In September, *Zizina otis* (Lepidoptera : Lycaenidae) was collected for the first time on Nakanoshima Is., and *Everes lacturnus kawaii* (Lepidoptera : Lycaenidae) was found for the first time in eight years. Many new distribution records were obtained, and continued surveys will be necessary in the future.

はじめに

筆者らは継続してトカラ列島の昆虫を調査しており、その成果は鹿児島県立博物館研究報告に報告してきた(例えば金井ら, 2020)。中でもチョウに注目して2017年時点でまとめを行った(金井・守山, 2018)。その際、調査不足の地域あるいは季節が判明したので、その不足を補うために調査を継続している(表1)。

2020年にコロナ禍の影響で調査を控えるように十島村

から要請があり、自粛していた。2023年7月に調査再開の許可が下り、7月諏訪之瀬島(金井)、8月平島(金井)、9月中之島(中峯)、10月口之島(守山)と、4回の調査を行うことが出来た。その結果を報告する。なお、7月の諏訪之瀬島調査の際は、短時間だが7月8日早朝に口之島、中之島の港周辺で採集を行った。その結果も諏訪之瀬島の調査結果に含めて記述しているので、御注意頂きたい。

表1. 1990年以降 県立博物館トカラ列島調査時期一覧

	冬(12月~2月)	春(3~5月)	夏(6~8月)	秋(9~11月)
口之島	2016年2月:金井 2016年12月:守山	2004年3月:中峯浩 2011年4月:金井・守山	2014年8月:守山 2015年8月:守山 2016年6月:守山・金井 2019年8月:守山	1998年10月:廣森 2009年10月:守山 2010年10月:金井 2011年10月:守山 2018年11月:守山
中之島	1995年11~12月: 黒江 2019年2月:守山	2012年4月:金井・守山 2014年5月:守山 2015年5月:守山・金井	1995年7月:江平 2003年6月:中峯浩 2013年8月:守山 2017年8月:守山	2000年10月:廣森・山下 2007年10月:中峯浩 2010年10月:守山 2013年9月:守山 2015年9月(上旬・下旬):守山 2019年10月:中峯敦 2023年9月:中峯敦
諏訪之瀬島		2013年4月:金井	2016年7月:守山 2023年7月:金井	1991年9月:福田・江平 2009年9月:中峯浩 2012年10月:守山 2015年10月:守山
平島		1990年5月:福田 2013年4月:守山 2014年3月:金井	2023年8月:金井	1990年10月:畑田 2007年9月:中峯浩 2012年10月:金井 2014年9月:守山 2016年10月:守山
悪石島		2018年5月:金井・小宮 2019年3月:金井	2002年8月:廣森	1992年10月:江平 2011年10月:守山・金井・中村
小宝島	1994年12月:黒江		2000年6月:廣森	2016年9月:守山 2017年10月:金井
宝島	2000年12月:廣森 2001年2月:廣森	2012年4月:金井 2019年5月:金井	2000年6月:廣森 2016年7月:守山	1993年10月:黒江 1994年11月:江平 1999年11月:廣森 2009年10月:中峯浩 2012年10月:守山

金井・守山(2018)を改変 太字は記録抜け及び2018年以降追加調査記録

1. 鹿児島県立国分高等学校 2. 鹿児島昆虫同好会 3. 鹿児島県立博物館

学名等については、トンボ目は尾園ら (2021), バッタ目は町田・日本直翅類学会 (2016), カメムシ目セミ科は、コウチュウ目は鈴木 (2019), チョウ目チョウ類は猪又ら (2013), 蛾類は木村 (2020) に従った。ただし、命名者と命名年については省略した。

十島村には、調査にあたり昆虫採取・捕獲の許可を頂いた。お礼申し上げます。

なお、採集年はすべて 2023 年なので省略した。

I. 口之島

1. 調査日程

10月27日 鹿児島本港発 (23:00) フェリーとしま2

28日: 口之島港着 (5:00)

7:50 に民宿を出て、集落～岩屋口～前之浜～西の浜～前岳林道～セランマ～牧内牧場～集落と回り、17:45 に民宿に戻った。

29日: 7:50 に民宿を出て、牧内牧場～戸尻～集落と回り、10:45 に民宿に戻った。

口之島港発 (11:45) フェリーとしま2

鹿児島本港着 (17:50)

移動は民宿の車を借りて行った

2. 調査者

守山泰司: 鹿児島県立博物館外部協力者, 鹿児島昆虫同好会会員

3. 調査結果

2023 年は平島, 中之島でヒメシルビアシジミが採集されており, 口之島へ再侵入していることを期待し, この時期に調査を行った, 調査を行った2日間はやや風が強いものの晴天で, 半袖 T シャツ 1 枚でも汗ばむような陽気と, なかなかの調査日和であった。

トンボの同定は, 鹿児島県農業開発総合センター大島支場長の松比良邦彦氏に, 蛾類の同定は, 鹿児島昆虫同好会の二町一成会長を介して日本蛾類学会の岸田泰則会長にして頂いた。各氏にお礼申し上げます。

なお, 採集者は守山なので省略した。*は今回注意していたが記録できなかった種を示している。

トンボ目 Odonata

ヤンマ科 Aeshnidae

ギンヤンマの仲間を 1 頭のみ目撃している。

トンボ科 Libellulidae

- ・スナアカネ *Sympetrum fonscolombii*

前岳北西麓 (10月28日, 2♀)

- ・オナガアカネ *Sympetrum cordulegaster*

集落 (10月28日, 1♂)

両種とも大陸からの飛来種と思われる, それぞれ口之

島初記録である。アカネ類はすべて迷トンボのはずなので注意していたが, このほかには見かけなかった。

- ・ウスバキトンボ *Pantala flavescens*
各所で見られたが, 少なかった。
- ・台湾シオカラトンボ *Orthetrum glaucum*
セランマ (10月28日, 1♂1♀)
- ・オオシオカラトンボ *Orthetrum melania ryukyense*
集落 (10月28日, 1♂)

カメムシ目 (半翅目) HEMIPTERA

セミ科 Cicadidae

- ・クロイワツクツク *Meimuna kuroiwae*

- ・ツクツクボウシ *Meimuna opalifera*

セミ類で鳴き声を聞いたのはこの 2 種だけで, 前種は島内各所で鳴き声が聞かれたが, 次種は局所的でセランマと前岳北西麓で聞いただけであった。

チョウ目 (鱗翅目) LEPIDOPTERA

アゲハチョウ科 Papilionidae

- ・アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*

各所で見られたが, 少なかった。

- ・ナガサキアゲハ *Papilio memnon*

集落 (10月28日, 1♀目撃), セランマ (10月28日, 数頭目撃)

かんきつ類の果樹園はなく, 集落内にはほとんど植えられていない。しかしながら, 人の生活の痕跡なので

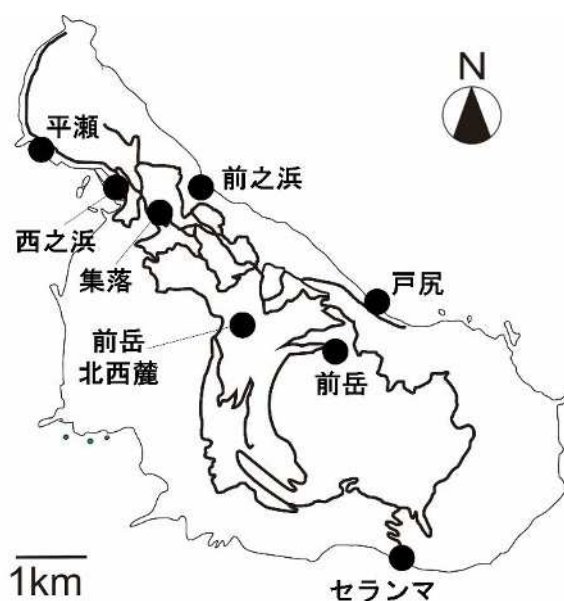


図1 口之島調査地

あろう、島を一周する道路わきには野生化したかんきつ類がところどころに見られ、それで発生しているものと思われる。

- ・モンキアゲハ *Papilio helenus*
各所でみられたが、少なかった。

シロチョウ科 Pieridae

- ・モンキチョウ *Colias erate*
集落 (10月28日, 1♂)
シロノセンダングサを訪れていた。ほかには見えない。

*ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe liukiu*

見かけなかった。集落内に生えている食樹のギョボクを丹念に探したが、幼生期も、発生した痕跡も確認できなかった。やはり、近隣の定着地から飛来し一時的に発生する迷蝶なのであろう。

シジミチョウ科 Lycaenidae

- ・ムラサキツバメ *Narathura bazalus*
セランマ (10月28日, 1♂, 1頭目撃)
秋の移動(南下) 個体なのかかもしれない。しかしながら、口之島、中之島、諏訪之瀬島には食樹のマテバシイの記録があり(十島村誌編集委員会, 1995)、本種が定着している可能性もある。
- ・ヤマトシジミ *Zizeeria maha*
各所で普通に見られた。
- ・タイワクロボシシジミ *Megisba malaya*
集落 (10月28日, 1♂) (10月29日, 1♂, 1頭目撃), セランマ (10月28日, 1♂)
食樹アカメガシワの周りを飛ぶもの、シロノセンダングサを訪れているものが見られた。
- ・ウラナミシジミ *Lampides boeticus*
各所でみられたが、少なかった。

- ・アマミウラナミシジミ *Nacaduba kurava*
集落 (10月28日, 1♂2♀)
モクタチバナの混じる林縁では普通に見られた。シロノセンダングサを訪花しているものも多かった。
- ・ルリウラナミシジミ *Jamides bochus*
集落 (10月29日, 10♂)
ほかには見えていない。発生源となるであろうクズの花はほとんど見かけなかった。
- *ヒメシルビアシジミ *Zizina otis*
見つけられなかった。発生してもよさそうなヤハズソウの群落は数か所で確認しているが、本種を採集したことのある3地点(西之浜の休耕田, 岩屋口の遺跡跡, 集落内のヘリポート)はそれぞれ藪と化しており、その群落も消滅していた。

タテハチョウ科 Nymphalidae

- ・ヒメアカタテハ *Vanessa cardui*
集落 (10月29日, 1♀)
各所で見られ、次種とともにシロノセンダングサを訪れていたが、次種より少なかった。
- ・アカタテハ *Vanessa indica*
集落 (10月29日, 1♀)
各所で見られ多かった。路傍のカラムシには幼虫が葉を綴った巣が多数みられた。
- ・ルリタテハ *Kaniska canace*
前之浜 (10月28日, 1♀), 集落 (10月28日, 終齢幼虫 2exs., 亜終齢幼虫 1ex.: ハマサルトリイバラ) (10月29日, 2齢幼虫 1ex., 3卵: ハマサルトリイバラ), セランマ (10月28日, 2♂)
成虫は各所でみられたが少なかった。集落の畑周囲の生垣や雑木林にはハマサルトリイバラが見られ、その新葉には産卵された卵も多数みられた(図2)。なお、



図2 ルリタテハ卵



図3 ルリタテハ終齢幼虫

終齢・亜終齢幼虫 (図3) は持ち帰ったハマサルトリイバラで飼育したところ、蛹化した後にすべて寄生蠅の囲蛹が脱出した。また、2 齢幼虫からは11月15日に♀が、卵からは12月15日に1♂1♀、20日に1♀が羽化した。

- ・イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas*
集落 (10月28日, 2♂1♀), 戸尻 (10月29日, 4♂, ほかに数頭目撃), セランマ (10月28日, 2♂1♀)
各所で見られたが, 少なかった。
- ・ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*
各所で普通に見られた。
- ・リュウキュウアサギマダラ *Ideopsis similis*
集落 (10月28日, 1♀) (10月29日, 1♂1♀にマーキング), 戸尻 (10月29日, 1♀にマーキング), セランマ (10月28日, 1♀にマーキング, ほかに3頭目撃)
各所で見られたが少なかった。屋久島での定着が確認されており (守山, 2023), 口之島にも定着している可能性がある。
- ・アサギマダラ *Parantica sita*
各所で見られたが, 少なかった。
- ・ツمامラサキマダラ *Euploea mulciber*
セランマ (10月28日, 1♀)
口之島初記録。ほかには見えていない。

セセリチョウ科 Hesperidae

- ・クロセセリ *Notocrypta curvifascia*
集落 (10月29日, 2♂)
ほかには見えていない。畑の周囲などに食草のゲットウが見られたが, 幼生期は確認できなかった。
- ・チャバネセセリ *Pelopidas mathias*
集落 (10月28日, 1♂1♀)
各所で普通に見られた。次種とともにシロノセンダングサを訪花していたが, 次種の方が多かった。
- ・イチモンジセセリ *Parnara guttata*
集落 (10月28日, 10♂)
各所で多かった。現在, 口之島では稲作を行っていない。

*キマダラセセリ *Potanthus flavus*

本種は年2化とされるが, 種子島・屋久島には年3化を示唆する採集記録がある。トカラでもその可能性があるが, 第3化の生き残りがいてもおかしくない時期である。以前本種を採集している前之浜や前岳北西麓のシロノセンダングサの群落に変わりはなく, 丹念に見て回ったが見つけれなかった。また, 前岳北西麓で幼生期も探したが確認できなかった。

シャクガ科 Geometridae

- ・キオビエダシャク *Milionia zonea pryleri*

セランマ (10月28日, 2♂1♀, ほかに1頭目撃), 集落 (10月28日, 1頭目撃)

他所では見ておらず, 食樹のイヌマキもほとんど見かけなかったため, 本種も少ないのであろう。

スズメガ科 Spingidae

- ・ホシホウジャク *Macroglossum pyrrhosticta*
集落 (10月28日, 1♂)
- ・クロホウジャク *Macroglossum saga*
集落 (10月28日, 1♀)
シロノセンダングサ群落では, 訪花しているホウジャク類が多数見られた。

II. 中之島

1. 調査日程

- 9月25日 鹿児島本港発 (23:00) フェリーとしま2
- 26日: 中之島港着 (6:20)
舟倉~御池~池原~高尾~池原~御池~舟倉
- 27日: 舟倉~高尾~中之島港
中之島港発 (11:20) フェリーとしま2
鹿児島本港着 (18:20)

調査は, 十島村教育委員会のご厚意で, 植物調査で使用中の車両に同乗させていただき, 移動した。

2. 調査者

中峯敦子: 鹿児島県立博物館学芸主事

3. 調査結果

調査は, 目視で判断できる種以外は, 必要に応じて捕虫網で捕獲し, 記録後, 採集あるいは放虫した。リストについて, 特に表記が無い場合は, すべて成虫の記録である。カメムシ目(セミ)及びチョウ目は, すべて中峯が記録し, トンボ類は, 十島村の植物調査に同行していた鹿児島昆虫同好会員, 宮川統氏と前田広則氏から提供された目撃情報も含めている。そこでトンボ目リスト中の採集・目撃者名は, 中峯をN, 宮川をMK, 前田をMDと表記し, リスト中, 数字がある場合は, 目撃, 採集頭数を示す。その他, 5頭未満は記号なし, 5~10頭は+, 11頭以上は++の記号をそれぞれ付記した。

なお, 調査時の天候は次のとおりである。

26日, 8:00の気温, 26°C, 12:00は28°C。終日, 曇天。日照が少なかったためか, 飛翔する昆虫も少なかった。

27日, 8:00の気温25°C, 乗船前11:00は28°C, 朝から晴天。チョウやハチ, アブ類の飛翔, 訪花吸蜜もよく見られた。主に高尾と港周辺で採集した。

トンボ目 ODONATA

イトトンボ科 Coenagrionidae

- ・リュウキュウベニイトトンボ
Ceriagrion auranticum ryukyuanum
各所 (9月26・27日, 目撃+: N・MK・MD)
- ・アジアイトトンボ *Ischnura asiatica*
各所 (9月26日, 目撃+: MK・MD)
- ・アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis*
各所 (9月26日, 目撃: N・MK・MD)
- ・ムスジイトトンボ *Paracercion melanotum*
各所 (9月26日, 幼虫・成虫目撃++: MK・MD)

ミナミヤンマ科 Chlorogomphidae

- ・ミナミヤンマ *Chlorogomphus brunneus costalis*
高尾 (9月26日, 幼虫目撃++: MK・MD)
水源地近くの溪流。

ヤンマ科 Aeshnidae

- ・ギンヤンマ *Anax parthenope Julius*
各所 (9月26日, 幼虫目撃: N・MK・MD)

トンボ科 Libellulidae

- ・ホソミシオカラトンボ *Orthetrum luzonicum*
御池 (9月26日, 2♂: N)
各所 (9月26・27日, 幼虫・成虫目撃++: N・MK・MD)
御池周辺では多数見られた (図5)。
- ・オオシオカラトンボ *Orthetrum melania ryukyuense*
各所 (9月26・27日, 目撃: N・MK・MD)
- ・ハラボソトンボ *Orthetrum sabina sabina*
各所 (9月26・27日, 目撃+: N・MK・MD)
- ・ウスバキトンボ *Pantala flavescens*
各所 (9月26・27日, 目撃++: N・MK・MD)
- ・チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa*

- 各所 (9月26・27日, 目撃: MK・MD)
- ・ハネビロトンボ *Tramea virginia*
各所 (9月26・27日, 目撃: MK・MD)

カメムシ目 (半翅目) HEMIPTERA

セミ科 Cicadidae

- ・クロイワツクツク *Meimuna kuroiwae*
各所で鳴き声を聞いた。

チョウ目 (鱗翅目) LEPIDOPTERA

アゲハチョウ科 Papilionidae

- ・モンキアゲハ *Papilio helenus*
各所 (9月26日, 目撃+)
舟倉～高尾間でよく見られた。
- ・カラスアゲハ *Papilio dehaanii tokaraensis*
御池 (9月26日, 目撃)
- ・アオスジアゲハ *Graphium sarpedon*
御池 (9月26日, 目撃)

シロチョウ科

- ・キタキチョウ *Eurema mandarina*
各所 (9月26日, 27日 目撃++)
- ・モンキチョウ *Colias erate*
高尾 (9月26日, 1頭目撃)
十島開発総合センター周辺でのみ見られた。
- ・ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe*
御池 (9月26日, 目撃)
御池周辺の林縁でのみ見られた。
- ・モンシロチョウ *Pieris rapae*
高尾 (9月26日, 27日 目撃)
十島開発総合センター周辺でのみ見られた。

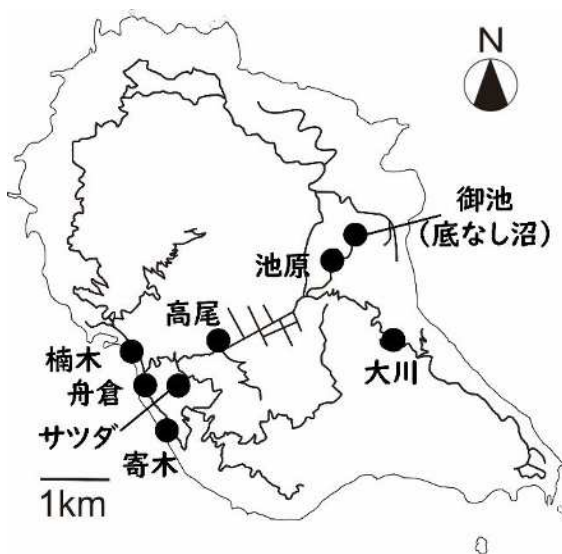


図4 中之島調査地



図5 ホソミシオカラトンボ



図6 ヒメシルビアシジミ (左: 背面, 右: 腹面)



図7 タイワンツバメシジミ



図8 ムラマツカノコ

シジミチョウ科 Lycaenidae

- ・ウラナシジミ *Lampides boeticus*
各所 (9月26日, 27日 目撃++)
- ・ヤマトシジミ *Zizeeria maha*
御池 (9月26日, 1♂)
各所 (9月26日, 27日 目撃++)
- ・ヒメシルビアシジミ *Zizina otis*
楠木 (中之島港) (9月27日, 5♂2♀ 目撃+)
港近くの草地のマメ科植物群落上を飛び回っていた。
中之島初記録である (図6)。
- ・タイワンツバメシジミ *Everes lacturnus kawaii*
高尾 (9月26日, 目撃+) (9月27日, 1♂)
十島開発総合センター周辺で見られた。シバハギの
花期に当たり, 採集した個体は新鮮だった (図7)。
- ・クロマダラソテツシジミ *Chilades pandava*
各所 (9月26日, 27日 目撃++)

タテハチョウ科 Nymphalidae

- ・リュウキュウアサギマダラ *Ideopsis similis*
御池 (9月26日, 1♂)
各所 (9月26・27日, 目撃)
- ・ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*
各所 (9月26・27日, 目撃++)
- ・ルリタテハ *Kaniska canace*
御池 (9月26日, 1頭目撃)
池周辺の林道上を飛行していた1頭のみ。
- ・アカタテハ *Vanessa indica*

高尾 (9月26日, 目撃)

- ・ヒメアカタテハ *Vanessa cardui*
高尾 (9月26日, 目撃)
- ・タテハモドキ *Junonia almana*
高尾 (9月26日, 目撃)

湿地やため池周辺など食草が生育できそうな環境があるが, 食草の探索はしなかった。中之島には食草のイワダレソウ, スズメノトウガラシ, オギノツメが分布している (十島村誌編集委員会, 1995), 現状を調べる必要がある。中之島でのタテハモドキの記録は木佐貫 (1981) の「(1977年7月19~20日に) 各地で普通に見られた」, 井上ら (1979) の「7月18~23日, 計10頭」が最後のようで, 十島村誌編集委員会 (1995) では「普通種」とされている。

- ・アオタテハモドキ *Junonia orithya*
高尾 (9月26日, 1♂ 1頭目撃)
草地, 林道上で見られた。

セセリチョウ科 HesperIIDae

- ・イチモンジセセリ *Parnara guttata*
高尾 (9月26日, 1♂)
少ないが, キク科センダングサ類へ訪花が見られた。

ヒトリガ科 ArctIIDae

- ・ムラマツカノコ *Syntomoides imaon*
舟倉 (9月26日, 1ex.)
21:00頃, 外灯下のクワズイモの葉裏に静止していた。
2004年に与那国島で発見されて以降, 沖縄県を経て,

鹿児島県トカラ列島（2021年宝島・小中 剛氏私信）にも侵入し、北上している。木村（2020）では徳之島が北限として示されているが、宮山（2023）では奄美大島でも記録されている。中之島初記録である（図8）。

ツトガ科 Crambidae

- ・シロモンノメイガ *Bocchoris inspersalis*
各所（9月26・27日、目撃++）
各所で見られたが、特に御池周辺の林縁に多かった。

III. 諏訪之瀬島

1. 調査日程

- 7月7日 鹿児島本港発（23:00）フェリーとしま2
8日：口之島（5:20～6:45）
口之島港～平瀬：徒歩で移動
中之島（8:10～9:40）
中之島港～寄木～サツダ～舟倉を徒歩で移動
諏訪之瀬島切石港着（12:20）
調査にはバイクを航送して持ち込み利用
集落～キャンプ場～ナベタオ～集落～牧場
～諏訪之瀬島空港～集落。夕食後、ナベタオに向かう山中で灯火採集，21:00宿帰着
9日：8:40 集落～ナベタオ～宿にて昼食
13:00 集落～ナベタオ～集落
10日：7:30 集落～キャンプ場
諏訪之瀬島切石港発（9:20）フェリーとしま2 鹿児島本港着（18:20）

2. 調査者

金井賢一：鹿児島県立博物館外部協力者，鹿児島県立国分高等学校

3. 調査結果

島巡りツアーの特別航海により、口之島及び中之島での採集時間が取れた。また、普通航海に比べて1日多い諏訪之瀬島での滞在になり、余裕を持って調査できた。

口之島では早朝ということもあり、少ない観察・採集となった。

- ・ニイニイゼミ 複数鳴いていた
- ・コハンミョウ 1ex.採集
- ・キバラハキリバチ 1♀採集
- ・クロマダラソテツジミ 1♂採集

中之島では日も射して、多くの昆虫を観察・採集できた。

- ・ホソミシオカラトンボ 複数♂目撃
- ・ウスバキトンボ 多数目撃
- ・クマゼミ 多数鳴き、抜け殻1目撃
- ・マダラバッタ 1♂目撃

- ・ショウリョウバッタ 幼虫1ex.目撃
- ・アマミクマバチ 複数♀目撃
- ・ヤマトアシナガバチ 1♀採集
- ・モンキアゲハ 2exs.目撃
- ・ウスキシロチョウ 1♂採集1♀目撃
- ・ツマグロヒョウモン 4♂目撃
- ・ウラナミシジミ 1♂採集
- ・クロマダラソテツジミ 多数目撃

小さな個体が多く、寄木のソテツには新芽無し、エサ不足の世代と思われる。

- ・ハマオモトヨトウ 幼虫多数目撃・撮影
舟倉の神社でハマオモトに多数確認した。本種は中之島において新記録であり（木村，2020），金井（2023a）に詳細を報告した。

全体を通して天候には恵まれ、問題なく調査できた。諏訪之瀬島ではナベタオの山中に大量の火山灰が積もっており、バイクの車輪を取られて転倒することが何度もあった。宿の主人によれば、一時期に比べて噴火の回数・火山灰共に減っているとのことである。

一番の目的は集落～ナベタオの山中で、未記録のキマダラセセリを探すこととした。ハマゴウを蜜源として多数の昆虫が集まる開けた場所を見だし、2日間待ち構えたがキマダラセセリは得られなかった。8日夜に灯火採集を試みたが、アオドウガネが大量に飛来し、蛾類や他の甲虫を採集できる状況になく、あきらめることとなった。

今回の採集個体のうち、甲虫は秋田勝己氏に同定して頂き、学名などについてご教示頂いた。お礼申し上げる。

なお、採集者は金井なので省略した。＊は今回注意していたが記録できなかった種を示している。

カメムシ目（半翅目） HEMIPTERA

セミ科 Cicadidae

- ・ニイニイゼミ *Platypleura kaempferi*
ナベタオ（7月8日，9日 多数鳴き声），集落（7月8日，9日 多数鳴き声）
島内の多くの場所で多数鳴いていた。採集はできなかった。
- ・クマゼミ *Cryptotympana facialis*
集落（7月8日～10日 多数鳴き声，7♂採集）
集落を中心に多数鳴いていた。キャンプ場では背の低いガジュマルなどに止まって鳴いており、採集しやすかった。4♂は林 正美氏に標本を提供した。
- ・ヒメハルゼミ *Euterpnosia chibensis chibensis*
ナベタオ（7月8日 19:20～19:50 多数鳴き声）
灯火採集の準備をしている中、大合唱だった。



図9 諏訪瀬調査地



図10 コハンミョウ♀

- ・クロイツクツク *Meimuna kuroi* wae
集落 (7月9日 1♂鳴き声)
次種が多数鳴いていた中で、1頭だけ鳴き声を聞いた。
時期的にも非常に早く、聞き間違いではないかと注意したが、明らかに本種であった。
- ・ツクツクボウシ *Meimuna opalifera*
集落～牧場～飛行場 (7月8日 多数鳴き声)
集落 (7月9日 1♂1♀)
この個体は林 正美氏に提供した。

コウチュウ目 (鞘翅目) COLEOPTERA

オサムシ科 Carabidae

- ・コハンミョウ
Myriochila (Myriochila) speculifera speculifera
ナベタオ (7月9日 1♂1♀), キャンプ場 (7月10日 1♀)
鈴木 (2023) によれば諏訪之瀬島に記録が無いが、榎戸 (2014) では諏訪之瀬島にも記録がある (図10)。

コガネムシ科 Scarabaeidae

- ・リュウキュウスジコガネ *Anomala cpustulata tokarana*
ナベタオ (7月8日 2♂1♀), 集落 (9.VII. 1♂)
- ・アオドウガネ *A. albopilosa gracilis*
ナベタオ (7月8日 1♂)

カミキリモドキ科 Oedemeridae

- ・トカラカミキリモドキ *Eobia fuscipennis*
集落 (9.VII. 1♀)
鈴木 (2023) によれば諏訪之瀬島新記録。

カミキリムシ科 Cerambycidae

- ・チャイロヒメカミキリ本土亜種
Ceresium simile flavopubescens
集落 (7月9日 1♂)
- ・コウノゴマフカミキリ *Mesosa konoii konoii*
集落 (7月9日 1♂1♀)

ハムシ科 Chrysomelidae

- ・キイロクワハムシ *Monolepta pallidula*
ナベタオ (7月8日 1♂1♀)

ハエ目 (双翅目) DIPTERA

ムシヒキアブ科 Asilidae

- ・シオヤアブ *Promachus yesonicus*
ナベタオ (7月9日 1♂1♀)

ハチ目 (膜翅目) HYMENOPTERA

ツチバチ科 Scoliidae

- ・シロオビハラナガツチバチ
Megacampsomeris schulthessi
ナベタオ (7月9日 1♂)

チョウ目 (鱗翅目) LEPIDOPTERA

アゲハチョウ科 Papilionidae

- ・モンキアゲハ *Papilio helenus*
ナベタオ (7月9日 1 ex. 目撃)
多くはなかった。
- ・ナガサキアゲハ *Papilio memnon*



図 11 森林に接したススキが生える環境（諏訪之瀬島）



図 12 平島調査地

集落（7月9日 1♀目撃）

- ・カラスアゲハ *Papilio dehaanii tokaraensis*
ナベタオ（7月9日 1♂, 他複数目撃）

シロチョウ科 Pieridae

- ・ウスキシロチョウ *Catopsilia pomona*
ナベタオ（7月9日 1♀, 他1♂目撃）

シジミチョウ科 Lycaenidae

- ・クロマダラソテツシジミ *Chilades pandava*
ナベタオ（7月9日 多数目撃）

*ヒメシルビアシジミ *Zizina otis*
ウマゴヤシやヤハズソウなど、食草群落が見つからなかった。

*タイワンツバメシジミ *Everes lacturnus*
空港の滑走路に少量シバハギが群落を作っていた。
この島では本種の記録は無く、見られなかった。

タテハチョウ科 Nymphalidae

- ・ツマグロヒョウモン *Argyreus hyperbius*
各所で見られた。
- ・イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas*
ナベタオ（7月9日 1 ex.目撃）

セセリチョウ科 Hesperidae

- ・チャバネセセリ *Pelopidas mathias*
ナベタオ（7月8日 1♂, 7月9日 1♀）
少なかった。
- *イチモンジセセリ *Parnara guttata*
注意深く観察したが、見つからなかった。
- *キマダラセセリ *Potanthus flavus*
森林脇でススキが生え、吸蜜植物のハマゴウが生える有望な環境で待ち構えたが（図 11）、見られなかった。

IV. 平島

1. 調査日程

8月19日 鹿児島本港発（23:00）フェリーとしま2
20日：平島東之浜港着（8:10）

朝食後、集落内（ヘリポートや小中学校）～水源地～集落内を徒歩にて移動。昼食後、集落内～小中学校から案内所にいたる林道、水源地を探索。夕食後、集落内を懐中電灯にて探索し、甲虫類を採集した。

21日：平島東之浜港発（8:20）フェリーとしま2
鹿児島本港着（18:20）

2. 調査者

金井賢一：鹿児島県立博物館外部協力者、鹿児島県立国分高等学校

3. 調査結果

全体を通して気温が高く、昆虫も少なかった。
今回の採集個体のうち、甲虫は秋田勝己氏に同定して頂き、学名などについてご教示頂いた。お礼申し上げます。
なお、採集者は金井なので省略した。*は今回注意していたが記録できなかった種を示している。

カメムシ目（半翅目） HEMIPTERA

セミ科 Cicadidae

- ・クマゼミ *Cryptotympana facialis*
水源地（8月20日 1♂鳴き声）
少なかった。
- ・ツクツクボウシ *Meimuna opalifera*
集落、水源地（8月20日 各1♂鳴き声）
午前中は少なかった。午後は集落東部の山道で普通

に聞かれた。

コウチュウ目 (鞘翅目) COLEOPTERA

オサムシ科 Carabidae

- ・オオミイデラゴミムシ *Stenaptinus agnatus*
集落 (8月20日 1♀)
夜間見回りで徘徊している個体を採集。鈴木 (2023) によれば平島新記録

コガネムシ科 Scarabaeidae

- ・フタスジカンショコガネ *Apogonia bicarinata bicarinata*
集落 (8月20日 2♂1♀)
鈴木 (2023) によれば平島新記録
- ・アオドウガネ *Anomala albopilosa gracilis*
集落 (8月20日 5♂)

アツバコガネ科 Hybosoridae

- ・フチトリアツバコガネ
Phaeochrous emarginatus emarginatus
集落 (8月20日 1♂1♀)
鈴木 (2023) によれば平島新記録

ゾウムシ科 Curculionidae

- ・ヒラヤマメナガゾウムシ *Aclees (Aclees) hirayamai*
集落 (8月20日 1 ex.)

カミキリムシ科 Cerambycidae

- ・ウスアヤカミキリ *Bumetopia japonica japonica*
集落 (8月20日 1♀)

ハムシ科 Chrysomelidae

- ・ウリハムシ *Aulacophora indica*
集落 (8月20日 2 exs.)

チョウ目 (鱗翅目) LEPIDOPTERA

アゲハチョウ科 Papilionidae

- ・ナガサキアゲハ *Papilio memnon*
集落 (8月20日 1♂目撃)

シロチョウ科 Pieridae

- *ツマベニチョウ *Hebomoia glaucippe*
小中学校の校庭にギョボクが生えていたが、食痕等
見つけることができなかった。

シジミチョウ科 Lycaenidae

- ・ヤマトシジミ *Zizeeria maha*
集落 (8月20日 1♂1♀)
少なかった。
- ・ヒメシルビアシジミ *Zizina otis*
集落 (8月20日 3♂)
出張所やペリポートの周辺でヤハズソウ群落が見られ、成虫が多数飛んでいた。
- ・クロマダラソテツシジミ *Chilades pandava*

集落 (8月20日 1♂1♀目撃)

タテハチョウ科 Nymphalidae

- ・リュウキュウアサギマダラ *Ideopsis similis*
集落 (8月20日 1 ex.撃)
- ・イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas*
集落 (8月20日 1♀目撃)
- ・アオタテハモドキ *Junonia orithya*
集落 (8月20日 1♀採集, 1♂1♀目撃)
- *タテハモドキ *Junonia almana*

近年トカラ列島では本種が採集されなくなり、平島では2016年に9年振りに採集されたのが最後の記録である。前回訪島した際にタイモなどを栽培していた水田状の環境が全て草原に変わっており、宿泊した大峰荘の方からも数年前に水田での米作りをやめたと聞いた。トカラ列島で減少すると予想されたが、2023年に中之島で目撃されているので(前出)、今後も環境を含めて注目していく必要があるだろう。

セセリチョウ科 Hesperidae

- *イチモンジセセリ *Parnara guttata*
- *チャバネセセリ *Pelopidas mathias*

両種とも注意深く探したが、高温かつ日差しの強い天候の中で見られなかった。

ヒトリガ科 Arctiidae

- ・ツマキカノコ *Amata flava aritai*
集落 (8月20日 1 ex.採集, 他1 ex.目撃)
木村 (2020) によれば、本種は平島初記録である。金井 (2023b) にて報告済みの個体である。

終わりに

2023年の採集では、真夏の調査が不足している諏訪之瀬島、平島の調査を行うことができた。高温により昆虫の姿は少なかったが、分布新記録などを得ることができた。注目される成果としては、以下のことが挙げられる。

- ・中之島でタイワンツバメシジミの生息が2015年(守山・金井, 2016)以来、8年振りに確認された。トカラ列島において、中之島以外では、2007年に平島で1♀が採集された記録しかなく(中峯, 2008)、平島ではこの記録以降も見つかっていない。中之島のタイワンツバメシジミ個体群は、日本亜種の安定した分布南限として、大変重要である。
- ・ヒメシルビアシジミは今回も諏訪之瀬島では見つからなかった。平島では発生の継続が確認され、南西諸島における本種の安定した分布北限となっていると思われる。今回、中之島で初めて採集された。中之島ではウマゴヤシやヤハズソウの群落で2012年には全く見られなかったが、2015年頃から集落の中に小さな群落が広が

り始めた。今回中之島で本種が見つかったということは、海を越えて分布を広げる性質を持つことを示していると言えよう。口之島では2010年10月まで見られたが、2011年4月に食草群落ごと消失(金井・守山, 2013)、今回も注意していたが見つけれなかった。本種の分布北限は今後も変動を続けていくと思われ、中之島で継続して発生を続けるのか、口之島で再確認できないか、今後も継続した調査が必要と思われる。

- ・ 中之島でタテハモドキが確認された。近年トカラ列島では本種はほとんど見られず、平島で2016年に9年振りの記録(守山・金井, 2017)が出て以来の記録である。

2004年6月に制定された昆虫保護条例により、十島村において環境の維持・改善がどのように進行しているか、モニタリングが必要である。県立博物館の調査活動とその結果は、このような環境監視活動や現状把握に貢献すると考える。今後も十島村の理解、協力を得ながら情報の蓄積を継続し、適宜、村や各研究機関に活用していただけるよう、発信していくつもりである。

未調査、調査不十分の昆虫分類群に注目すれば、分布新記録など新しい知見が積み重ねられるだろう。また、チョウやトンボなど視認しやすい昆虫の継続的調査は分布変動や迷入などの情報を蓄積できるであろう。両視点を持ちながら、今後もトカラ列島の昆虫相解明に取り組んでいきたい。

引用文献

- 江平憲治 (2023) 鹿児島県のトンボ・資料編. 417 pp. 南方新社, 鹿児島.
- 榎戸良裕 (2014) 鹿児島県のハンミョウ科 - 今までに蓄積されている情報と課題 -. *Satsuma*, (151): 1-27.
- 林 正美 (2016) セミ科 Cicadidae. 日本昆虫目録第4巻 新翅目: 250-255. 日本昆虫学会, 福岡.
- 猪又敏男・植村好延・矢後勝也・神保宇嗣・上田恭一郎 (2013) 日本昆虫目録. 7 (1): 鱗翅目 セセリチョウ上科-アゲハチョウ上科. 119 pp. 日本昆虫学会, 福岡.
- 井上栄明・松本修治・木野田毅 (197) トカラ. 中之島採集報告. *Leben*, (17): 22-32

- 金井賢一 (2023a) 中之島でアカマダラヨトウの幼虫を目撃. *Satsuma*, (172): 7.
- 金井賢一 (2023b) 平島でツマキカノコを採集. *Satsuma*, (172): 7.
- 金井賢一・守山泰司 (2013) 2011年4月と10月の口之島における昆虫記録. 鹿児島県立博物館研究報告 (32): 11-16.
- 金井賢一・守山泰司 (2018) トカラ列島のチョウ類. 鹿児島県立博物館研究報告 (37): 19-30.
- 金井賢一・守山泰司・中峯敦子 (2020) トカラ列島口之島・中之島・悪石島・宝島の昆虫 (2019). 鹿児島県立博物館研究報告 (39): 11-19.
- 木村正明 (2020) 琉球産蛾類目録 2020 <https://gashowkimura.wixsite.com/moths-of-ryukyu> 2022年11月1日閲覧 (2023年3月6日更新版)
- 木佐貫健二 (1981) 1977年7月にトカラ列島中之島で採集した蝶類. *Satsuma*, (85): 117.
- 町田龍一郎・日本直翅類学会 (2016) 日本産直翅類標準図鑑. 384pp. 学研プラス, 東京.
- 宮山 修 (2023) 奄美大島でのムラマツカノコの観察記録. *Satsuma*, (171): 151.
- 守山泰司 (2023) 屋久島におけるリュウキュウアサギマダラの動静 (5) -2022~23年も越冬を確認, 屋久島南部に定着-. *Satsuma*, (171): 69-73.
- 守山泰司・金井賢一 (2016) トカラ列島口之島, 中之島, 諏訪之瀬島の昆虫 (2015). 鹿児島県立博物館研究報告, (35): 57-66.
- 守山泰司・金井賢一 (2017) トカラ列島口之島, 諏訪之瀬島, 平島, 小宝島, 宝島の昆虫 (2016年). 鹿児島県立博物館研究報告, (36): 1-13.
- 中峯浩司 (2008) トカラ列島平島及び中之島の昆虫(2007年秋). 鹿児島県立博物館研究報告, (27): 83-92.
- 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮 (2021) 日本のトンボ改訂版. 531 pp. 文一総合出版, 東京.
- 鈴木 茂 (2023) 日本列島の甲虫全種目録 (2023年) <https://japanesebeetles.jimdofree.com/> 2023年11月1日閲覧 (2023年4月10日更新版)
- 十島村誌編集委員会 (1995) 十島村誌. 1758 pp. 十島村, 鹿児島. (平田浩: 陸上の生物(植物): 56-146; 福田晴夫: (昆虫類): 188-220)